

# 研究テーマ:遠隔共創コミュニケーション(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2P-A20005)

研究機関: 日本電気(株) C&Cイノベーション研究所  
情報通信研究機構 けいはんな研究所

## 研究の概要:

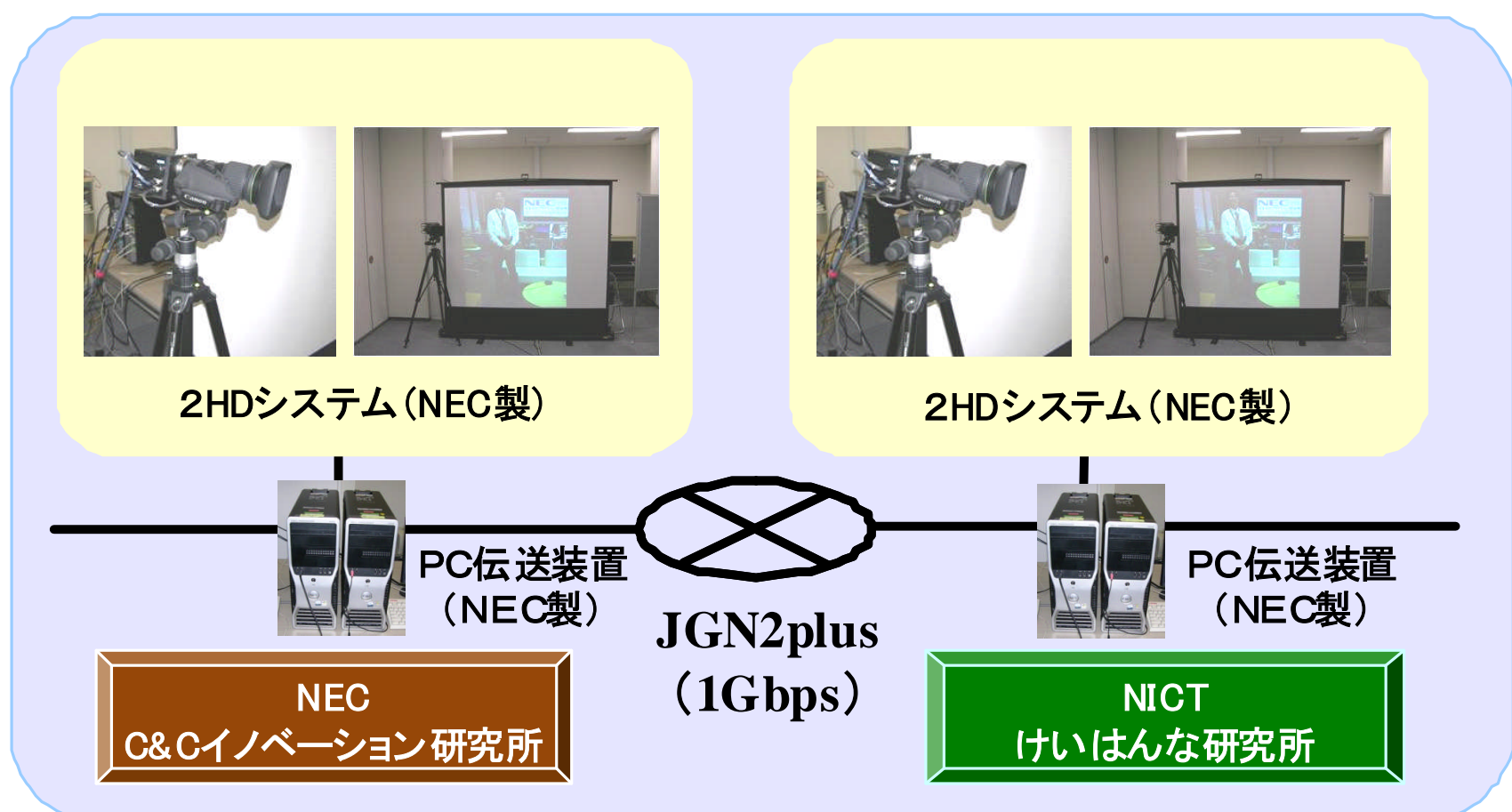
高精細映像を送受信可能な大画面遠隔コミュニケーションツールでNEC C&Cイノベーション研究所と情報通信研究機構(NICT)を接続し、情報交換に使用して使用感を確認。長時間接続して実物大に投影することで心的バリアが低減し、隣の部屋と同様な感覚を得られることが確認できた。また、NICTの一般公開でデモを実施し、一般の方に、未来のオフィスのイメージとなる高精細画像での遠隔通信を体験していただいた。

## 研究の目的:

高精細映像による次世代の遠隔コミュニケーション対話方式の探求を目的として、NEC C&Cイノベーション研究所とNICTけいはんな研究所を相互接続して相手方の様子を大画面スクリーンに投影し、遠隔地間で情報伝達コミュニケーション、共創活動等を行う際の利点や課題を分析する。これにより、現状のテレビ会議システムにおいて生じる、意識的な参加を行わなければ遠隔地の情報を得ることができないという問題や、遠隔地の相手に話しかけることに対して心的バリアが存在するという問題の自然な解決をめざす。

## 実験機器構成:

2007年度に開発した、縦2段のHD映像を撮影できるカメラと伝送システムを NEC C&Cイノベーション研究所とNICTけいはんな研究所に設置。両研究所をJGN2plusで相互接続し、高精細映像を送受信してハイビジョン×2段の高精細映像をそれぞれで投影。NECでは、縦 2.25m、横 2m のサイズのスクリーンにほぼ等身大で投影。



## 研究テーマ:遠隔共創コミュニケーション(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2P-A20005)

研究機関: 日本電気(株) C&Cイノベーション研究所

情報通信研究機構 けいはんな研究所

### 研究開発成果:

NEC/NICT両ラボ間のHD映像による相互接続を実施し、お互いの研究所の日常を大画面で映し出して使用感を確認。遠隔地のラボに関して、画面を注視しなくても視界の中に捉えることで意識せずに先方の様子を認識することができる、遠隔地の会話に自然に参加することができる等、心的なバリアを低減し隣の部屋と同様な感覚を得られることが確認できた。また、NICTのけいはんな一般公開(2008年8月2日)でデモを行い、来場者にNECの研究所の様子や研究内容を遠隔地から紹介して、一般の方に、未来のオフィスのイメージとなる高精細画像での遠隔通信を体験していただくことができた。なお、これに先立つNICTの小金井一般公開(2008年7月25日、26日)においても、けいはんな研究所と小金井本部の間で超高精細映像空間を遠隔共有する際にも本研究の機材を活用した。



NICT→NECの伝送映像



NEC→NICTの伝送映像

(2008.08.02.のけいはんな一般公開にて)

### プロジェクトのアピールポイント

高精細映像を送受信可能な大画面遠隔コミュニケーションツールを開発し、2拠点間を相互に常時接続して情報交換に使用し、つながり間の向上や会話参加への心的バリアの低減等の効果を検証した。また、一般向けのデモを通じ、両研究所の先進性と地区に根付いた連携の存在をアピールすることができた。

### プロジェクトの自己評価

遠隔地との共創活動において、日常の高精細・大画面での映像双方向接続がつながり感の向上等に一定の効果を示すことが確認できた。ただ、定量的な評価には至らなかった。また、多地点との接続実験等を予定していたが、諸般の事情で初年度で中断となった。